

# 《 学部 消息 》

## 教 授 会 メ モ

### 元年12月20日（水）定例教授会

理学部 4号館 1320号室

- 議題 (1) 前回議事録承認  
 (2) 人事異動等報告  
 (3) 奨学寄附金の受入れについて  
 (4) 平成2年度内地研究員の受入れについて  
 (5) 人事委員会報告  
 (6) 教務委員会報告  
 (7) 東京大学理学部規則「別表」の一部改正について  
 (8) 企画委員会報告  
 (9) 理学院計画委員会報告  
 (10) その他

### 2年1月17日（水）定例教授会

理学部化学本館 5階講堂

- 議題 (1) 前回議事録承認  
 (2) 人事異動等報告  
 (3) 奨学寄附金の受入れについて  
 (4) 人事委員会報告  
 (5) 企画委員会報告  
 (6) 理学院計画委員会報告  
 (7) 理学部長候補者の選出について  
 (8) その他

### 2年2月21日（水）定例教授会

理学部化学本館 5階講堂

- 議題 (1) 前回議事録承認  
 (2) 人事異動等報告  
 (3) 奨学寄附金の受入れについて  
 (4) 学部学生の転学部（転入・転出）について  
 (5) 平成2年度公立大学研修員の受入れについて  
 (6) 人事委員会報告  
 (7) 教務委員会報告  
 (8) 会計委員会報告  
 (9) 企画委員会報告  
 (10) 理学院計画委員会報告  
 (11) 評議員の選出について  
 (12) 臨海実験所長の選出について  
 (13) 分光化学センター長の選出について  
 (14) 地殻化学実験施設長の選出について  
 (15) 企画委員会委員の選出について  
 (16) 人事委員会及び会計委員会委員の半数改選について  
 (17) その他

## 人 事 異 動 報 告

| 所 属     | 官 職   | 氏 名     | 発令年月日     | 異動内容  | 備 考               |
|---------|-------|---------|-----------|-------|-------------------|
| (講師以上)  |       |         |           |       |                   |
| 数 学     | 教 授   | 伊 原 康 隆 | 元. 12. 1  | 配 置 換 | 京都大教授へ            |
| "       | "     | 伊 原 康 隆 | "         | 併 任   | 平. 2. 3. 31 まで    |
| 動 物     | 助 教 授 | 守 隆 夫   | "         | 昇 任   | 講師より              |
| 生 物 化 学 | 講 師   | 高 橋 孝 行 | "         | "     | 助手より<br>(留学生担当教官) |
| 化 学     | 助 教 授 | 濱 口 宏 夫 | 元. 12. 31 | 辞 職   |                   |
| 地 質     | "     | 松 本 良   | 2. 1. 16  | 昇 任   | 講師より              |
| 物 理     | 講 師   | 清 水 清 孝 | 2. 2. 1   | "     | 助手より              |

| 所属   | 官職 | 氏名    | 発令年月日     | 異動内容 | 備考      |
|------|----|-------|-----------|------|---------|
| (助手) |    |       |           |      |         |
| 植物化学 | 助手 | 津田 雅孝 | 元. 12. 1  | 昇任   | 山口大講師へ  |
| 中間子  | "  | 日高 洋  | "         | 転任   | 熊本大助手より |
| 地球物理 | "  | 門野 良典 | 元. 12. 14 | 復職   |         |
| 中間子  | "  | 栗田 敬  | 元. 12. 16 | 昇任   | 筑波大助教授へ |
| 人類   | "  | 門野 良典 | 元. 12. 31 | 辞職   |         |
|      | "  | 石田 貴文 | 2. 1. 1   | 転任   | 京都大助手より |

(職員)

|    |     |       |           |    |
|----|-----|-------|-----------|----|
| 化学 | 用務員 | 岡本 實  | 元. 12. 31 | 辞職 |
| 分光 | 事務官 | 津代 章子 | 2. 2. 1   | 採用 |
| 地質 | 技官  | 酒井 隆  | "         | "  |

## 外国人客員研究員報告

| 所属       | 受入れ教官 | 国籍       | 氏名                            | 現職                      | 研究員期間                  | 備考 |
|----------|-------|----------|-------------------------------|-------------------------|------------------------|----|
| 物理学科     | 小林助教授 | 中華人民共和国  | CHENG, Xu San<br>成 序 三        | 中国科学院上海光学精密機械研究所助理研究員   | 2. 1. 1~<br>2. 3. 31   |    |
| "        | 大塚助教授 | "        | CHEN, Xiao Lin<br>陳 曉 林       | 北京大学講師                  | 2. 2. 1~<br>2. 3. 31   |    |
| "        | "     | "        | LU, Da Hai<br>盧 大 海           | 北京大学研究員                 | 2. 2. 1~<br>2. 3. 31   |    |
| 数学科      | 俣野助教授 | ドイツ連邦共和国 | AMAUN, Herbert                | チューリッヒ大学正教授             | 2. 2. 2~<br>2. 4. 13   |    |
| 物理学科     | 小林助教授 | アメリカ合衆国  | HALLE, Scott<br>David         | マサチューセッツ工科大学助教授         | 2. 2. 23~<br>3. 2. 22  |    |
| "        | 大塚助教授 | ドイツ連邦共和国 | BUCHMANN,<br>Alfons Johann    | チュービンゲン・エバーハート・カールズ大学助手 | 2. 3. 1~<br>3. 1. 10   |    |
| 地球物理研究施設 | 國分 教授 | 日本       | 渡 辺 富 也                       | ブリティッシュ・コロンビア大学教授       | 2. 3. 14~<br>2. 12. 31 |    |
| 地学科      | 島崎 教授 | マダガスカル   | RAKOTONDRAT-<br>SIMA, Charles | マダガスカル大学講師              | 2. 4. 1~<br>2. 9. 30   |    |

## 理学博士の学位取得者

[平成元年11月27日付 (3名)]

|      |       |   |
|------|-------|---|
| 情報科学 | 建石 由佳 | 文章の表面情報による日本文の評価  |
| 物理学  | 太田 洋  | 光誘起吸収によるアモルファスシリコンおよびアモルファスシリコン系超格子の研究                        |
| 論文博士 | 柳澤 道夫 | 伸縮計および歪ゲージによる地殻の研究 — 多測定点石英管伸縮計と歪ゲージ歪計の開発および鋸山地殻変動観測所における観測 — |

〔平成元年12月15日付（3名）〕

|      |       |   |
|------|-------|---|
| 植物学  | 由良 浩  | カラマツとシラベの比較生理生態学的研究<br>— 乾燥に対する抵抗性の差とその機構 — |
| 論文博士 | 平野 丈夫 | 培養下におけるラット小脳プルキンエ細胞の膜電位依存性及びシナプス性イオン電流の研究   |
| 論文博士 | 高柳 正夫 | 逆ラマン分光法の化学的応用                               |

〔平成2年1月29日付（7名）〕

|       |       |   |
|-------|-------|---|
| 地球物理学 | 中村 匡  | オーロラ電子ビームと沿磁力線電流                          |
| 物理学   | 大苗 敦  | CO <sub>2</sub> レーザー媒質中の振動量子交換過程          |
| 論文博士  | 常行 真司 | 第一原理的原子間力を用いた分子動力学法によるシリカ多形の研究            |
| 論文博士  | 石橋 晃  | アルミ砒素ガリウム砒素極薄膜超格子に於ける縦型光学音子と電子状態に関する実験的解析 |
| 論文博士  | 名川 吉信 | トリアゾール環を持つペリ置換ナフタレンの構造と反応性                |
| 論文博士  | 安藤 哲哉 | 高次元射影多様体の中の射影直線の法線束について                   |
| 論文博士  | 福田 洋一 | 人工衛星海面高度計および重力データを用いた局所重力場の精密決定           |

海 外 渡 航 者

（6月以上）

| 所属  | 官職 | 氏 名     | 渡 航 先                       | 期 間                   | 目 的   |
|-----|----|---------|-----------------------------|-----------------------|---|
| 天文  | 助手 | 柴 橋 博 資 | アメリカ合衆国<br>オ ラ ン ダ<br>ベルギ ー | 2. 1. 2<br>～2. 7. 15  | 「日震学—恒星の内部の探査」研究プログラム参加, コスパー研究会「宇宙からの日震学」参加及び討議のため |
| 植物園 | 助手 | 村 上 哲 明 | アメリカ合衆国                     | 2. 2. 12<br>～4. 2. 11 | 「新熱帯（中南米）地域の植物とアジアの植物との比較研究」を行なうため                  |



## 理学部長と理職との交渉

11月20日、12月25日、1月22日に理学部長と理学部職員組合（理職）との定例の交渉が行なわれた。また、1月24日には、理学部長から理職技術系職員部会に対して総長室に設けられた「技術職員問題に関する検討会」における検討結果等について報告が行われた。その主な内容は以下のとおりである。

### 1. 理学院計画について

11月の交渉で、理職から、理学院計画は事務組織をはじめとしてまだ内容が不明確な部分が多いが、概算要求をして実現性があるのかとの質問があった。学部長は、今回大学院問題懇談会に理学院原案として提出するもので、いわば、たたき台としてのものであると答えた。12月の交渉で理職から、そのたたき台としての原案の内容について質問があった。学部長は、第3次素案とほぼ同じだが、学生定員などについては、具体的な数が書き込まれると答えた。

12月の交渉で理職から、理学院問題で1、2月中に懇談会を開くよう要請があった。学部長は説明会を開くつもりであると答えた。1月の交渉で、理職から、学部長は理学院計画をどのような日程で進めているかについて質問があった。学部長は、第3次素案を修正した「計画原案」を2月の教授会に提案し3月の教授会で承認を求めると答えた。

### 2. 理学院における事務組織について

11月の交渉で、理職から、理学院計画委員会の事務・技官組織検討小委員会で各教室、研究施設・センターに対して実施した教室事務に関するアンケートの結果について質問があった。田沢委員長は、このアンケートの結果をふまえて小委員会で素案を作り、この素案について各教室主任を通じて各教室・研究施設・センター事務職員の意見を聴取していきたい、また理職にも周知する旨答えた。12月の交渉で理職から小委員会で議論の公開をするよう要請があった。田沢委員長から、教室事務、秘書、図書業務について再編成を検討していることが述べられた。学部長は、制度を問答無用で変えるようなことはしないと述べた。

1月の交渉で理職から、現場の事務官がどのような変化が起こるのか予測できず不安であることを訴えているので、小委員会での検討内容について説明して欲

しい旨要望があった。田沢委員長から、次のような構想が説明された。理学院事務部に現在の教室事務、秘書、図書業務を中心とした「学術協力課」（仮称）を設け、現在の中央事務と効率よく結ばれる専攻事務掛等を置く。教室事務の仕事のうち中央事務で処理できるものは中央に移し、専攻事務（現在の教室事務に対応する）はそこに特有な事務に専念できるようにする。また、「学術調整室」や「国際協力室」といったスタッフ制的な事務部とは別に、学術に関する計画の立案、推進や国際交流の総合的企画等を扱う部署を設けるという案も出ている。また、理職から、教室の負担軽減のためには事務職員の増員が必要である旨要望があって、学部長は、定員増を含む事務の充実強化は理学院計画の中で重視していると述べた。

### 3. 理学院における助手および若手研究者について

12月の交渉で理職から、助手は位置づけとしては、「教授・助教授の職務を助ける」ものであり「学士」の有資格とするものとなっているのに対し、実際は研究活動の主体となっており、大学院生の指導も担当しており、博士号をもつ人が多いという、制度と実態との違いがあることについて指摘があって、理学院計画の中に実態に即した助手等の制度改善を含めないのかとの質問があった。学部長は、教官の職名や比率を変えることは理学院には盛り込まない、全国的な問題なので動かすのが難しい、理学院化は待遇改善が主目的ではない、と答えた。

12月の交渉で、理職からPDF（ポストドクトラルフェロー）について質問があった。学部長は、これは「武者修行」という性格をもつもので、任期付きとすると答えた。また、11月の交渉で理職からRA（リサーチアシスタント）・TA（ティーチングアシスタント）について質問があった。学部長は、これらは、本人への教育効果を重視して考えていると答えた。これに対して理職から、継続性のないTAが導入されるとかえって常勤の助手が忙しくなるのではないかという発言があり、学部長は、そのようなことはしない、と述べた。さらに、12月の交渉で理職からRA・TAの選任の方法についてどのように考えているか質問があった。学部長は、大学院生全員に自動的にやらせるものでもなく、講座あたりに定員を割り振るものでもな

いと答えた。

#### 4. 広域理学院等について

11月の交渉で理職から、理学院化の原案の中で「広域理学院」をどうするのかについて質問があった。学部長は、柏キャンパスを前提としないで実現可能な「広域理学専攻」を理学系研究科としてまず発足させるつもりである、教官はほとんど併任で実数はふえないが、事務官・技官の定員増は要求すると答えた。

1月の交渉で理職から柏キャンパス問題について質問があった。学部長は、柏に施設を作るならば事務官・技官の増員が絶対に必要なので、広域理学院と柏キャンパスとは連動して考えていると答えた。また、柏キャンパスを要求することを工学部と話し合って本部に進言したこと、キャンパス問題は他の場所の問題もからんでおり、特にタイムリミットがあるとは考えていないことを述べた。

#### 5. 技術職員の組織について

11月の交渉で、理職から、「技術官」という職名を認めるかどうかについて質問があった。学部長は、理学部の技術職員が望むならば認めると答えた。

12月の交渉で、理職から、総長室に設けられた「技術職員問題に関する検討会」における検討状況について質問があった。学部長に代わって検討会に出席した田沢評議員から、理念問題の議論がされ具体的な案は出されなかった旨回答があった。また、理職から技官組織をスタッフ制とするよう強い要請があった。学部長は、本部案についてけん制することよりも、理学部の案に引き寄せて読み変えることを考える、スタッフ制にするとはっきりとは言えないと答えた。

1月の交渉で、理職から技術官を給与表の6級まで含む位置づけにするよう要請があった。また、人事院がスタッフ制でいけないことはないと言っているとして、スタッフ制にするのを重ねて要請があった。学部長は、人事院がよいと言うならスタッフ制には検討の余地があるが、理学部だけ突出することはできない、東大全体あるいは文部省全体の整合性も考えなければならぬと答えた。さらに理職から「技術官」の国の予算書上の位置づけがどうなるかについて質問があった。事務長は、現状通り「技術職員」であると答えた。

1月24日には、理職技系部会から学部長に対し前日に行なわれた総長室に設けられた技術職員問題検討会

の検討結果について質問があった。学部長は次のように回答した。4月1日組織化実施をめざし、総長補佐が責任者となって理念構築とタイムテーブルを作成することになった。検討されている組織案は職制に専門職を加えたものである。そこでは「技術官」という名称が考慮されている。

#### 6. 技術職員の研修等について

11月の交渉で、理職から、教室所属の技官が一般設備費を申請するわくを設定してほしい旨要請があった。学部長は、現制度のもとでは、一般設備費の要求は各教室・施設から出すようになっているので、教室内の担当者を通じて出してほしいと答えた。

12月の交渉で理職から、技官が学会等へ出席するための旅費および手続きに関して改善要望があった。学部長は、委任経理金で、必要があればその経理責任者が使ってよいと判断すれば出張できる。また、研修等による出張については企画委員会を中心に積極的に検討していると述べた。

1月の交渉で、理職から企画委員会内の技官の研修に関する小委員会の検討状況について質問があり、田沢委員長から説明があった。

#### 7. 昇級・昇格等、待遇改善について

11月の交渉で、理職から、技官の6級昇格について、2名が4月にさかのぼって認められたことについて、感謝の意の表明があった。事務長から、この昇格が理学部からの要望順位どおりでなかったことに関して、文部省が判断されたと思われる基準についての説明があった。

12月、1月の交渉で、理職から、事務官の4級昇格の資格該当者を掛主任任用の候補者として上申するよう要請があった。事務長は、該当者は全員推薦していると答えた。また、理職から事務主任ポスト増の要望があった。事務長は本部に対して強く要望していると答えた。

12月の交渉で理職から、4級の事務主任の5級昇格の早い実現に向けて努力するよう要望があった。事務長は来年もぜひやらなければならない、適任者がいればどんどん推薦したいと答えた。

12月の交渉で理職から、図書職員の、特に定年が近い人について、5級昇格の早期実現かた要請があった。事務長は努力すると答えた。

11月、12月、1月の交渉で理職から、懸案の行(二)

技能職員の4級昇格の見通しについて質問があった。事務長は努力していると答えた。(その後2月2日に、4月1日にさかのぼって昇格した。)

12月の交渉で理職から、行(二)技能職員で定員化以後約5年間実質的に事務の仕事をしている人の行(一)への振替をするよう要請があった。事務長は、承知しており、努力すると答えた。

#### 8. 教務職員の待遇について

12月の交渉で理職から、教務職員制度の廃止に向けて取り組むよう要望があった。学部長は、助手への振替で概算要求していると答えた。これに対して理職から、現在の制度のもとでも高位号俸者の頭打ちの救済を急ぐよう重ねて要望があった。学部長は、助手ポストは業績集団にふさわしい人を採用すべきであり、教務職員対策に使うのは半年に限られると答えた。ただし、各教室の判断で教室の助手ポストを使ってふりかえる

道はあると述べた。さらに、理職から、教務職員問題の担当となっている伊理総長特別補佐に対して学部長はどのような意見を述べたかたずねた。学部長は、学部長会議の折りに、給与制度に問題があることと、あらかじめ将来助手になり得る者を採用すべきであることを述べた、と答えた。

#### 9. その他

11月の交渉で理職から、寄付講座について理学部ではどのような規則を作って設置するののかとの質問があった。学部長は、全学の規則に準ずる方針であると答えた。また、理職から、数学科に寄付講座が設けられるという計画について質問があった。学部長は、5月の教授会で設置の方向が了承され、現在、企業との間で具体的な交渉段階にあり、最終決定ではないと述べた。

## 編集後記

平成元年度の最後の広報をお届けします。この号は理学部長和田昭允先生をはじめ、この春定年退官される方々のお別れの言葉と、親しい方からの送る言葉の“特集号”です。長年にわたる研究教育、大学の事務運営に対する御尽力に感謝し、ご健勝と益々のご活躍を祈念申し上げます。

理学部広報を読みやすく親しみやすいものにするということは、歴代編集委員長の大きな課題で、これまでも多くの試みが行われてきました。昨今、多くの国立研究所からはカラー印刷の大変立派な広報誌が発行されておりますが、我が理学部広報も何とか表紙くらいはもっと魅力的にならないかということで、実現しましたのが本年度第1号(平成元年6月発行)からお届けしている2色印刷の表紙の広報であるわけです。三鈴印刷のご協力もあり、1部当りの価格をほぼ据え置いたまま、やや紫がかった青色と黒の2色印刷のモダンな表紙が実現しました。さらに表紙の写真もできるだけ大きくし、目次は裏表紙にもってきました。また本文につきましても執筆者の皆様のご協力により、かなり写真や図版を多く入れていただき、読みやすくなったのではなかろうかと存じます。しかし理学部研究ニュースを多くの方に書いていただけるにはどうすればよいかとか、問題はたくさん残されております。

最後に中央事務小谷昭氏の編集協力を深く感謝し、次期編集長、横山先生(生化)にバトンタッチしたいとぞんじます。

佐藤勝彦